

IUFRO-SPDC プレ・ワークショップ 「フタバガキ科樹種の菌根菌と増殖」に参加して

横 田 明 彦

1991年3月26日から28日までインドネシア・ボゴール農科大学において IUFRO-SPDC, IUFRO-Japan の主催による研究集会「フタバガキ科樹種の菌根菌と増殖」が開催されたので、開催に至るまでの経緯とプレ・ワークショップについて簡単に紹介したい。

経 緯

IUFRO-SPDC の活動を支援するため平成元年度より農林水産省 ODA による拠出を要求すべく活動を開始した。要求内容を研究プロジェクトの実施ということにして、筆者が「菌根菌を利用した熱帯林再生技術研究」と「熱帯有用広葉樹の増殖技術の研究」を提案し、わが国菌根菌研究の第一人者である小川真氏のアドバイスを受け「アジアにおける熱帯広葉樹林回復促進技術の研究」という案件を作った。これは地球環境問題での熱帯林の重要性及び熱帯林再生の技術的な可能性という点でタイムリーな良い案件と思い、予算要求したが実現には至らなかった。平成2年度は「バイオテクノロジー及び菌根菌利用によるアジア地域熱帯林回復促進技術の研究」として再度農林水産省に要求したが、これも不成功に終わってしまった。意気消沈していたところ、前所長的小林富士雄氏のご尽力により外務省からの拠出を得ることに成功した。このおかげでインドネシアでのワークショップが実現したものである。

ワークショップ

今回のワークショップには日本、フィリピン、台湾、パプアニューギニア、インドネシア、マレーシア、タイ、スリランカの8か国から17名の研究者が参加し、「フタバガキ科の菌根菌と増殖」に関する各国の研究の現状と問題点につき討議することを目的に開かれた。1日目は参加各国のカントリー・レポート、2日目はボゴール郊外にある大学試験地のフタバガキ科天然林や展示林

YOKOTA, Akihiko: IUFRO-SPDC Pre-Workshop "Dipterocarps and Mycorrhizal Fungi"
農林水産省森林総合研究所森林生物部

カンントリー・レポートでは日本の小川真氏、フィリピンの R.E. CRUZ 氏をはじめ合計 9 名の研究者が研究テーマにつき発表を行った。その結果、きのこ分類専門の研究者の不足、研究予算や設備の不足などが問題となっているため、多国間共同研究の早期実施や研究情報ネットワークの整備等により効率的な研究の進展を図る必要性が指摘され、参加者の強い支持を得た。最後に、緊急課題である熱帯林再生技術の確立に寄与すべく世界各地からフタバガキ科樹種の菌根菌や増殖に関する研究者の参加を得て、1992 年 5 月に日本で研究集会を開催することが満場一致で決議されプレ・ワークショップは終了した。（集会については 79 ページを参照されたい。）

